

井原議員（広志会）

令和5年2月13日  
教育長答弁実録  
(教育委員会)

(問) 教育長が進めた改革と学びの変革の振り返りについて

これまでの取組について、成果と課題、今後の取組の方針について伺う。

(答)

県教育委員会におきましては、「学びの変革」アクション・プランに基づき、課題発見・解決学習を取り入れたカリキュラムの開発をはじめ、探究的な学習活動に取り組む「主体的な学び」へと、教育の質的転換を図ってまいりました。

平成30年度以降、全ての小・中・高等学校が課題発見・解決学習に取り組んでおり、児童生徒の主体的な学びの実現に向けた授業づくりを組織的に進めてきた結果、「主体的な学び」が定着している児童生徒の割合の最新数値は、小・中・高いずれの校種においても、平成30年度を上回っております。

「学びの変革」を推進する基盤といたしましては、県立学校におきまして、令和2年度以降、生徒一人1台のコンピュータの導入を順次進め、国の新型コロナウイルス感染症対策予算も活用し、令和3年夏までに、校内の通信ネットワークの整備を完了いたしました。

これらのインフラを活用して、中山間地域に位置する県立高等学校におきまして、多様な学びの機会を提供することを目的に、令和3年度に遠隔教育システムを導入し、遠隔授業による単位認定に向けた仕組みを整えたところでございます。

また、平成31年4月に開校いたしました広島叡智学園中・高等学校は、国際バカロレア認定校となるとともに、県内の多くの教員の視察を受け入れ、プロジェクト学習やデジタル機器の効果的な活用といった先進的な取組の普及に貢献しており、「学びの変革」を先導的に実践する学校としての役割を果たしております。

その他にも、「学びの変革」の理念に基づく環境の整備として、

- ・ 「広島県の15歳の生徒にどのような力を身に付けさせたいか」という観点からの公立高等学校入学者選抜の改善や、
- ・ 県立商業高校4校における、新たな時代のビジネスで求められる情報活用能力や課題発見・解決力等を有した人材の育成を目指した学科改編といった取組を進めてまいりました。

加えて、様々な個性や特性等を持った子供たち一人一人に応じた多様な学びの機会と場を創出し、「個別最適な学び」を推進していくため、対面とオンラインの両面により、子供たちが社会とつながる場を提供する「SCHOOL “S”」の設置などに取り組み、こうした場に参加した子供が自分なりの方法で自分を表現するようになったといった成果が報告されております。

今後の課題といたしましては、不登校児童生徒の増加等に表れているように、学びの場に位置付くことができない子供たちが増えている状況であることから、「個別最適な学び」を実現できる、多様な学びの場を質的・量的に充実させ、全県に普及していくことが必要であると考えております。

こうした課題も踏まえ、県教育委員会といたしましては、一人一人の子供たちが持っている可能性を最大限に伸ばし、新たな時代を生き抜くために必要な力を身に付けることができるよう、「学びの変革」の定着と更なる深化に向け、全力で取り組んでまいります。